



小児病棟で  
子どもたちを見守る  
小さな天使

# キワニス・ドール・シンポジウム

—子どもたちとキワニスクラブをつなぐちいさな天使

日時:2009 年 4 月 4 日 (土) 午後 1 時~5 時

場所: 東芝本社 39 階会議室

主催 (社)東京キワニスクラブ

横浜キワニスクラブ

埼玉キワニスクラブ

後援 日本小児科学会

東京都

支援 株式会社東芝

BT ジャパン株式会社

富士ゼロックス株式会社

## プログラム

### 13:00 開会挨拶

- ・国際キワニス日本地区ガバナー 大堀太千男

### 13:10 キワニスドールとは/ビデオ投影

### 13:30 パネルディスカッション1/ドールを作る喜び

- ・キワニス会員と製作ボランティアの皆様

### 14:00 パネルディスカッション2

#### 看護師からの使い方/ベスト・プラクティス

- ・北里大学病院 主任看護師 内藤茂幸様
- ・日赤医療センター 看護師 南山由美様
- ・神奈川県立こども医療センター

外来主任看護師 中根貴子様

### 14:30 お子さん及び親御さんからのメッセージ

- ・水戸済生会総合病院

外科病棟看護課長 檜山千景様

### 14:45 医師・看護教育からのドールの使い方

#### ベスト・プラクティス

- ・順天堂大学医学部小児科 准教授

田中恭子先生

- ・茨城キリスト教大学 看護学部教授

藤村真弓先生

### 15:15 基調講演ーキワニスドールへの期待

- ・順天堂大学医学部大学院教授

山城雄一郎先生

### 15:30 閉会

### 15:45～17:00 ドール作り体験コーナー

## ○開会

○総合司会：荒木なぎさ東京キワニスクラブ会員



## ○大堀ガバナーより開会の挨拶

今日は東京、横浜、埼玉キワニスクラブが合同で開催するキワニス・ドール・シンポジウムにご多忙の中、しかも土曜日の午後、絶好のお花見日和にもかかわらず、講師の先生方をはじめ、パネラーの方々、大勢の方のご参加をいただきましたことを心から感謝を申し上げます。また、ご後援いただきました日本小児科学会、東京都、またご支援をいただきました株式会社東芝、BT ジャパン株式会社、富士ゼロックス株式会社に心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

キワニスクラブは1915年にアメリカのデトロイトで誕生いたしました。現在全世界で約90カ国、8000のクラブ、25万人の会員を擁しています。青少年を構成員とするサークルKなど所謂キワニスファミリーの会員を含めると、60万人に上ります。「世界の子ども達に奉仕する」をモットーに活動をしている世界的な奉仕団体です。日本では東京クラブが1964年、ちょうど東京オリンピックが開かれた年にアジア太平洋地域では初めてのクラブとして設立されました。現在は28のクラブ、約1600人の会員が活躍をしています。

本日はキワニスワンデーと言いまして、全世界のキワニスの会員が子ども達のためにいろいろな形で活動をする日となっており、このシンポジウムもその一環の活動です。キワニスドールは後ほどいろいろお話が出と思いますが、2001年にキワニスの会員とその家族がつくり始めました。今年の3月までに約3万個、700の医療機関に寄贈をしました。入院中の子どもさんのお友達となっています。秋田の看護学校の加藤さんがこんなことを言っておられます。「キワニスドールを患者の子どもさんにお渡しすると、喜んでくれ、私がいなくても話しかけて遊んだり、また医療措置についての説明をすることによって子どもの心の負担を軽減できたと思います。」非常に短い文章ですが、キワニスドールの特徴をよく表していると思います。

本日はキワニスドールのづくり手の方々や看護師の方々、医療関係の方々、大勢お集まりをいただきました。キワニスドールがもっとも多くの機関で利用され、活用されますよう多くの情報を共有したいと思います。キワニスドールのづくり手であるキワニスの会員やボランティアの方々は現実にキワニスドールがどのように使われているのか、子どもさんにどのように愛されているのか、なかなか体験する機会がないと思います。この機会にその成果を知り、今後のキワニスドールをつくることへの気持ちを高めることにぜひお役立ていただきたいと思っております。私もいろいろなお話を伺えることを楽しみにしております。キワニス・ドール・シンポジウムの開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。ありがとうございました。



## ○キワニスドールの DVD 上映

### ○パネルディスカッション1/ドールを作る喜び

○モデレーターの星 利樹東京キワニスクラブボランティア活動委員長より自己紹介並びにパネラー紹介

私はドールの製作数については家内と一緒にですが、誰にも負けないので、ドールをつくることだけ話せば良いと思っていましたが、司会進行までやることになりました。ドールをつくる喜びはつくってみて感じました。その一端をこのパネルディスカッションで紹介できればと思います。



### ○東京家政学院中学校高等学校家庭科の中野実香先生

学校で正規授業の中でキワニスドールの製作を採用されている唯一の例です。ほかの中学校高等学校でもドールづくりをしています。準授業のような生徒が希望してキワニスドールをつくることは行なっています。

### ○横浜キワニスクラブ臼井タミ会員

平成 7 年からの会員、横浜クラブの中ではドールづくりのオーソリティです。現役の薬剤師です。

### ○菊地淑子様

横浜クラブのボランティアとしてドールづくりをされています。由井会員のご友人、保育園の仕事に長く携わり施設長をされています。現在も子どもへの関心は深く、福祉サービス第三者評価の評価機関で保育・児童分野の評価調査を行う仕事に関わっておられます。

### ○埼玉キワニスクラブ佐藤宏子会員（副会長）

㈱オリンパス副社長で、2001 年から埼玉キワニスクラブの会員です。埼玉クラブのドール活動の中心の方です。人に優しい、環境に優しいという埼玉の LRT 導入活動に専心されています。

### ○渡辺典子様

ずっと主婦業をされ、シニア大学、大学院に進まれた大変向学心の高い方です。埼玉クラブでドールづくりを一生懸命されています。

## 1)キワニスドールづくりにどういう動機で参加されましたか？

### ○東京家政学院中学校高等学校家庭科中野先生

東京家政学院は市ヶ谷にある中学、高校、大学までの女子校で、家庭科の教員をしています。キワニスドールとの出会いは東京家政学院の佐野金吾校長からの紹介です。私自身はキワニスドールのことは全く知りませんでした。キワニスクラブの活動の DVD を見、ドールづくりに参加し、つくり方や活動の内容を教えてくださいました。昨年の 7 月ごろ 2 週をかけて、私が担当をしている高校 3 年の選択授業の保育演習の中で、生徒 20 名と一緒にドールをつくりました。昨年からの取組みで 1 年目の新人ですが、これからどんな取組みの仕方があるのかその可能性が知りたく、このシンポジウムに参加させていただきました。

#### ○横浜キワニスクラブ臼井タミ会員

私は横浜クラブで社会公益委員を担当させて頂いております。担当の一部にキワニスドールがあり、自然に役柄としてドールづくりをさせて頂きました。やっていくうちにいろいろなことを思い、良さ、広がりがあったら良いなと考えています。

#### ○菊地淑子様

横浜クラブで活躍中の由井美恵子様の友人として長くお付き合いをしている中で、キワニスドールを知る機会がありました。私自身、保育園に長く勤めており、今も子どもの幸せを考えています。21世紀のこれからを考えると、子ども達には皆幸せで健やかに育てほしい。病になってしまった子ども達のために、キワニスドールをつくるボランティアができることは、自分自身にとっても幸せなことだと思っています。

#### ○埼玉キワニスクラブ佐藤宏子会員（副会長）

キワニスに入会して8年になります。キワニスドールに携わって約4年半、最初は課題が見えずに苦労しました。健康で当たり前の生活をしている子ども達が病気と闘っている姿を見て、何かお役に立つことができればと思い、ドールをつくっています。ドールは子どもにとって切っても切り離せないパートナーであり、友達だと思いながら頑張っています。Together We Can 継続はちからなりというキワニスの言葉の通り、今私の力、心になっていると思います。キワニスドールはテレビ、新聞、雑誌に取り上げられ、広くその存在が知られるようになりました。それをきっかけにボランティアの方々にドールづくりの声をかけ、参加が増えて、ドールも一つひとつ心を込めてつくっていただいています。以前にも増してドールをつくる喜びで、嬉しく幸せに思っています。

#### ○渡辺典子様

キワニスドールのことを知りませんでした。佐藤様が病院にドールを届ける時にご一緒させていただき、知るようになりました。子ども達が喜んで使っている姿を見て、一つひとつ心を込めてつくって行きたいと思います。

#### ○星 利樹東京キワニスクラブ会員

私の動機は型破りで、中期高齢者になり、寿命もさほど残っていません。自分の娘や息子の可愛さと孫の可愛さは格別です。その孫の可愛さから病気の子どもや皆の幸せを願っています。特に会社人間でしたので、現役のときは何もボランティア活動ができませんでした。リタイアして時間ができて、さて何かというときに何か子どものためにできるものという、このキワニスドールがぴったりで、のめりこんでいます。つくるだけで喜びになりますが、それがさらに喜ばれると、こんな喜びはありません。

## 2)ドールをつくってどんな成果がありましたか？

#### ○中野先生

生徒達もキワニスドールのことを知りませんでした。授業の初めに今日はこのキワニスドールをつくりますと言ったときの反応は、白いノッペラボウの人形は何なの？キモッという表情でしたが、キワニスドールの活動のDVDを見て、キワニス会員のお話を伺うころには真面目な顔になり、いろいろなことを考えているようでした。製作に入ると、裁縫やミシンが苦手な子もいますが、生徒達はキワニス会員からやさしくわかりやすく教えていただきながら、一つひとつつくりあげていきました。

授業が終わった後の生徒達の感想文には、今回キワニスドールを初めて知ったが、とても良い活動だと思った。病気と闘って頑張っている子ども達を知ることにより、今自分達が健康に暮せる幸せ、感謝の気持ちを改めて感じた。だからこそこの活動に参加でき、少しでも病気と闘う子ども達のために力になれた気がして私も嬉しかったとありました。キ

ワニスドール製作の様子は家政学院のホームページでボランティア活動の紹介の中で発信しています。参加すると、お人形の形の可愛いピンがいただけるので、生徒達はとても喜んでいきます。

#### ○臼井会員

横浜キワニスでは産経新聞でドールづくりを呼びかけて事務局で作っています。最初はわからないまま参加してくださる方もいましたが、綿詰めをしながら、作る目的などを話し、輪が広がっています。我家でドールを作ったときは中学生から小学生までの孫に綿詰めをしてもらいました。孫達は自分達が元気なことを改めて感謝し、病気に打克つ為には心の寂しさも補ってあげなければならないことを知りました。そんな当たり前のことでも今まで気づかずにいたことが小学生でもわかるようになったことが嬉しかったことです。今は病気の子供達達の心のケアやいろいろな使い方がありますが、これからは、私どもは勿論、元気な子供達も巻き込み、謙虚に自分の立場を見直し、元気な子供達の心を育む様一人でも多くの子供達と作っていったら広がりが増すと思います。会員の各家庭で行うのは勿論のこと、小学校そして社会教育分野の、ガールスカウトなどのカリキュラムに取り入れて頂けるよう会員が努力すれば、今までにない大きな広がりが期待されるのではないかと、これからの課題として提案します。

#### ○菊地様

病気の子どものために人形をつくることは良いことだと思いました。私がつくったお人形がどの子に行くかわかりませんが、早く良くなってねとお人形に気持ちを託しながらつくっています。自分自身幸せになり、病気の子供達に願いが届いて欲しいと思いながらつくっています。

#### ○佐藤様

病院、看護学校からお礼状をいただきますが、その一つをご紹介します。

「このたびは埼玉医科大学総合医療センター川越保育学園の子ども達に天使キワニスドールをご寄贈いただきまして、誠に有難うございました。当幼稚園では病院に勤務する職員のご子息をお預かりしています。医療に携わる親の姿を見ながら成長している子ども達です。将来、医者や看護師を目指す可能性を秘めている子ども達も多いと思います。今回子ども達を見守る小さな天使キワニスドールをいただき、職員がドールに絵を描いたり、変身させ、たくさんの人形が完成しました。職員の個性が描かれた人形は子ども達の保育に欠かせない教材となっています。この人形はなぜつくられたのかを話すと、真剣に聞き入る姿が印象的でした。お人形と遊ぼうよと言うと皆がうなずきました。このような指導ができたのも天使キワニスドールが保育園に来てくれたからです。私達も療養中の方々が一日も早く回復できますよう応援しながら、キワニスドールを使わせていただいています。」これが私の喜びあり、友人達の喜びでもあり、こらからも活動が続けて行きたいと言ってくれています。

#### ○渡辺様

病院関係者から子ども達がとても喜んでいて、ありがとうございますと言われ、こんな素敵なボランティアができることは私も幸せだと思います。

○星様 感謝をいただくというのも喜びであり、つくる喜びと二重の喜びです。



### 3)キワニスドールを一般の方、ボランティア団体の方々に拡大していくためには、何か提案はありますか？

#### ○佐藤様

埼玉キワニスクラブは 10 年を迎えますが、更なる発展と新たな取り組みに取り組んでいき、今後ともドールづくりを継続するとともに医療機関との連帯強化により病気の子ども達のために少しでもお役にたつことを目指し、寄贈先とのコミュニケーション、ドールのPR、普及をはかっていきたいと思っています。私の願いは会員、ボランティアの皆様の協力を得て、今年もたくさんのキワニスドールを誕生させる計画を検討しています。会員が一丸となって日々活動していきます。キワニスドールの普及活動に暖かいご支援、ご協力をお願いいたします。

#### ○中野先生

私自身キワニスクラブの活動を初めて知りましたので、もっといろいろな人に知っていただくことが大切だと思います。生徒一人ひとりが友達、家族にキワニスドールのことを話すだけでもボランティア活動になると生徒達に話しています。次の段階の夢は実際に病院で自分達のつくったドールがどのように愛されているのか、生徒達とともに自分の目で見て感じたいと思っています。今日のシンポジウムで感じたことを生徒達に伝えたいと思います。

#### ○菊地様

私の友人などに呼びかけてグループをつくり、ドールをつくりましょうと発信していきたいと思っています。

○星様 ドールの製作数は年々増えてきています。今まではキワニスクラブの会員、家族で製作をまかなっていましたが、評判が良いドール製作の拡大は草の根からが良いのではないかと。今日ご出席の方々から小さい輪を広げていっていただきたいと思っています。

私が日頃ドールをつくることに対して考えていることと今日皆様がお話されたことが、だいたい同じですので、私のまとめを紹介して終わりにしたいと思います。子ども達の助けにならないかと思い、取り組んでつくっていくプロセスの中で子ども達の心からの回復、幸せを願ってつくっている自分、その願いが叶えば嬉しいし、感謝状をいただくことで自分がつくっていることが本当に喜ばれていること、そういう喜びがキワニスドールをつくる喜びそのものではないかと思っています。人の幸せを祈って、それを実現していく、結果的にそれが自分の幸せにもつながっていることを今日ご出席の皆様に紹介して、ぜひドールづくりから病気の子ども達のために手助けをするご支援、ご協力をお願いいたします。





## ○パネルディスカッション2/「看護師からのドールの使い方、ベスト・プラクティス」

○モデレーターの熊平美香東京キワニスクラブ会員 病気のお子さんの回復や幸せを願ってつくったドールがどのように実際に現場で使われているのかを紹介していただきます。

○神奈川県立こども医療センター外来主任看護師の中根貴子様は、キワニスドールを活用して眼科外来、看護外来でプレパレーションを取り入れたオリエンテーション等を行っています。

神奈川県立こども医療センターの中では、外来看護師がキワニスドールを活用させていただくことが多いので、外来でのキワニスドールを使った看護の実際と、お子さんやご家族が作成したかわいいキワニスドールたちを紹介させていただきます。

私は現在眼科外来で勤務しています。眼科外来には多くの患者が通院されており、入院や手術という初めての経験を前に不安なお子さんや、心配されているご家族の方たちと話しをする機会があります。また以前から眼科では「当て金」と呼ばれる眼帯を手術後お子さんに使用しますが、精神的に不安定になるお子さんが多く、何かいい方法はないかと検討してきました。

そこで眼科外来では、お子さんやご家族に対して行う術前オリエンテーションの当て金の説明に、キワニスドールを活用したプレパレーションを取り入れることにしました。看護師がまずキワニスドールに当て金を当てて、お子さんに説明します。「このお人形と同じように、〇〇ちゃんのおめめにくっついて眼を守ってくれる、大事な眼帯だよ、しばらくは仲良しさんだよ」と話します。そして実際に当て金をお子さんの眼に当て、痛くないこと、ちゃんと見えることを体験してもらいます。その後で、真っ白なキワニスドールを見せて、人形を作成する希望のあるお子さんにお渡ししています。

外科外来では、胃瘻を造設される予定のご家族の方に、写真のようなキワニスドールをお見せしています。医師からの手術説明だけでは分かりにくい部分もあるので、実際に人形を手にとってもらい、術後在宅でのケアをイメージしてもらっています。

採血という痛い処置を行う中央採血室では、お子さんの恐怖心を最小にし、頑張れた事が自信につながるように、お子さんがよく知っているキャラクターを描いたキワニスドールを活用しています。年齢や状況によっては安全面を考慮し、ベッドに横になって採血を行います。その際お子さんが注射器の方を向いてしまうと恐怖心が増強するので、注射器とは反対側から看護師がキワニスドールを持って声をかけ、関心を惹きつけます。結果として、人形を見ている間に採血が終わります。この手法はプレパレーションのなかのディストラクションという効果があります。

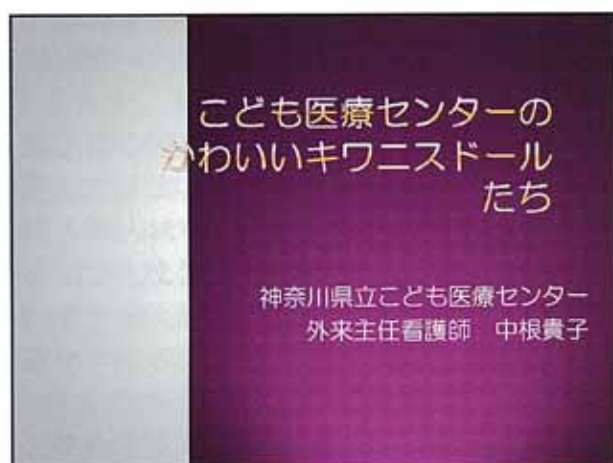
眼科外来に通うお子さんやご家族が作成した、かわいいキワニスドールを紹介します。看護師が見本としてキワニスドールに絵を描き、「好きなキャラクターの絵を描いてね」と説明してキワニスドールを渡します。かわいい絵が描かれた人形、ご家族がフェルトで洋服や髪の毛を作った人形、そしてお子さんが眼鏡をかけているので、同じように眼鏡をかけた人形もいます。耳を粘土で作ったものや、全身にお子さんが洋服の絵を描き毛糸で



髪の毛をつけた後、市販の人形についていたポシエットをつけた人形もあります。それぞれの家庭で様々な工夫をされ、お子さんと話しながら作っている場面が目に浮かびます。お子さんが小さい頃に着ていた洋服を利用して作成した人形にはお子さんが作ったネックレスがかけられ、頬にはお化粧がしてありました。この人形を作成したお子さんは術前検査の時、この人形を抱きしめて診察室に入りました。市販の人形が着ていた洋服を利用し、顔や髪などはフェルトで作成した人形もあり、キワニスドールの写真を撮り続けている私も愛着が湧いてきます。

以前に多く聞かれた術後の当て金装着によるパニックは、今はほとんど聞きません。家族からもキワニスドールを使ってお子さん入院の話ができ、入院や手術への不安が軽減したという感想をいただきました。キワニスドールを活用した術前のプレパレーションは不安を軽減する効果があるのだと考えます。かわいいキワニスドールたちがお子さんに色々な頑張る力を与えてくれています。

いつもたくさんのキワニスドールを寄贈していただきありがとうございます。これからも当センターのなかで、キワニスドールを活用した看護を実践していきたいと考えています。









○北里大学病院幼児学童病棟主任看護師の内藤茂幸様は、プレパレーションをテーマとした看護研究をされており、キワニスドールを用いた看護を実践されています。

今日はお伝えしたいことがたくさんあり、詰め込みすぎて駆け足の発表になってしまうと思いますが、ご了承ください。私は小児病棟で看護師をしています。キワニスドールは活躍をしてくれていますので、紹介したいと思います。

まず、子ども達がどういう環境で入院されているか紹介したいと思います。子どもが病気を治すところですが、好きで入院している子どもはいません。一口に子ども達のストレスと言ってもいろいろあります。中でも親との分離とそれに伴う不安や見知らぬ人との関わりによって生じる不安は言葉では言い表せないほどのものがあると思います。処置や検査によって不安になることがたくさんあります。採血や痛みを伴う処置もあります。痛みのない処置でも子どもにとっては何をされるのか不安があり、心のストレスは増します。

当院の病棟を紹介したいと思います。6人の部屋が基本的な病室になっています。病室には「きりんくみ」「たんぽぽくみ」などの名前が付いています。ベッドは2種類あり、見た目は檻みたいですが、お子さんがベッドから落ちないようにになっています。プレイルームは楽しい場所で、キワニスドールをつくったりしています。処置室は子ども達にとって一番嫌な場所です。

キワニスドールの活躍を3つご紹介したいと思います。

#### ① プレパレーションツール

プレパレーションとは準備という意味ですが、小児領域で使われるときは「その子らしく検査や治療を受けられる心の準備」をするということです。そのときにキワニスドールが大活躍してくれます。点滴を入れるときの説明に使わせていただいています。肛門をあけて、浣腸や座薬を入れるときの説明に使ったりしています。大人の場合は言葉で説明するだけで、その処置の必要性が理解できますが、特に幼児期の子どもは言葉で説明しても理解が難しい場合は、キワニスドールのような人形を使うことで、少しでもストレスが少なく処置に臨めればと思います。

#### ② 「Child Doctor Hospital の患者役として登場！」

北里大学のぬいぐるみ病院部というサークル活動の学生と一緒にしている活動です。本来ぬいぐるみ病院部の方々は保育園、幼稚園で子ども達を対象に保健教育や病院で慣れ親しんでもらうような活動をしています。そこから独自の活動としてやっています。目的としては慣れない入院環境による心のストレスや医療に対するマイナスのイメージ、考えを緩和する。また医療器具や医療行為について一つ一つその意義を知ってもらい医療に親しみを持ってもらう。入院中の子ども達に医療器具に触ってもらったり、遊んでもらったりする。またキワニスドールを患者役に見立てて、子どもに医者役をやってもらう活動をしています。

まず顔を描いたり、名前をきめてもらったりします。子どもは自分と同じ病気を設定することが多く、聴診器を胸に当てたり、痛くないからねと言いながら注射をしていました。看護師たちのことを良く見ているなと思いました。子ども達の手によって病気が治ったキワニスドールで素敵な笑顔だと思います。

お子さんの反応を紹介したいと思います。

「人形はどうして病院に来たんだろうね？」の問いに「頭が痛いんだって」と答えた我が子。自分の病気と同じことを言うとは正直驚きました。人形にガーゼを貼っていたのですが、「あまり長く貼っているとかゆくなるから、そろそろはがしてあげるんだ」と自分の身に起きていることと重ねあわせて考えていました。親が面会に来るまでの間も、それとなく人形に触ったりして、少しでも人形に安らぎを求めているのかな・・・

と思いました。

無償で作ってくださっていると聞き驚きました。とてもありがたく思います。今後とも病気の子ども達のために活動を続けていただければと思います。という言葉いただきました。

キワニスドールを処置の説明に使わせていただけていますが、心のケアにも力を発揮しています。

### ③「プレイツール」

遊び道具に使わせていただけていますが、入院生活は子ども達にとって我慢や辛いことの連続ですので、何とかそういう思いを少なくしてあげたいと常々思っています。キワニスドールを見せると、最初は「何だろう？」と戸惑うような表情をしますが、すぐに熱中します。お母さんが帰ってしまって泣いていて、看護師が何を言ってもママのところに行くんだと言って聞かなかったお子さんに「一緒に色塗りしようか？」とキワニスドールを見せると、夢中になって色を塗っていました。夢中になりすぎて、こちらが名前を呼んでも反応しないで、無言で色塗りをしていました。キワニスドールは子ども達の良いパートナーとなっています。自分より年下の病気の子にプレゼントすると言って一生懸命色塗りをしていた子どももいました。もらった子どもも喜んでいたので、このような使い方も素敵だなと思いました。

ここでお子さんの反応を紹介したいと思います。私自身も印象に残っていることで、キワニスドールの力を改めて感じました。親御さんからの話です。

白血病で末期、5歳の男の子でした。状態はおもわしくなく、日に日に体力が衰え、好きな遊びも満足にできない状態でした。少しでも気分転換になればと思い、看護師の一人がキワニスドールに絵を描くことを勧めました。その子はキワニスドールを真っ黒に塗りました。前も後ろも頭も足も真っ黒に。クロちゃんと名づけたキワニスドールはあの子の辛い気持ちを、不安な気持ちを受け止めてくれたんだと思います。それからどこに行くにもクロちゃんと一緒にしました。やっと状態が少し落ち着き、外泊に出掛ける際にも、あの子はまずクロちゃんを忘れないように持ちました。なぜ真っ黒に塗ったのかはあの子の口からは聞けませんでした。クロちゃんがあの子を見守っていてくれていたことは確かだと思います。

実際にこの場面を見ていましたが、キワニスドールが不安な気持ちを受け止めて支えてくれる存在になったと感じて、スタッフ一同感謝したのを覚えています。

キワニスドールは子どもの様々な思いを受け止めてくれる存在で、活用方法はアイデア次第。キワニスクラブの活動に感銘を受けるとともに、感謝の気持ちでいっぱいです。私たちが出来ることは活動の趣旨をいろいろな方に伝えていきつつ、今後も子ども達の笑顔をキワニスドールに携わる皆様にお伝えできるようにしていきたいと思っています。



Child Health Nursing + Kiwanis Doll

## 小児病棟でのキワニスドールの活躍 ～北里大学病院の場合～

北里大学病院 幼児・学童病棟  
看護師 内藤茂幸

Tokyo Kiwanis Club, Keio University Hospital

Child Health Nursing + Kiwanis Doll

こんにちは。  
小児病棟で看護師しています

Tokyo Kiwanis Club, Keio University Hospital

Child Health Nursing + Kiwanis Doll

小児病棟って・・・

もちろん子どもが病気を治すところ。

**だけど・・・**

好きで入院している子どもはいないんです！！

Tokyo Kiwanis Club, Keio University Hospital

Child Health Nursing + Kiwanis Doll

### 入院中の子どものストレス

- ☑ 自分が変わることへの不安
- ☑ 発達途中で得てきた能力を失うことへの不安
- ☑ 不完全な自分になることへの不安
- ☑ 分離不安
- ☑ 見知らぬ人との関わりによって生じる不安
- ☑ 身体の一部を失うことへの不安
- ☑ 罪悪感
- ☑ 怒りや攻撃性、抑うつ

(奥山:1998)

➡ そして、なんと言ってもいろいろな処置や検査！！

Tokyo Kiwanis Club, Keio University Hospital



Child Health Nursing + Kiwanis Doll

## ここから出してくれ～



オリみたい  
なんて言わないで  
NO—、(；´Д`)／——！！

Tokyo Kiwanis Club, Kawasaki University Hospital

Child Health Nursing + Kiwanis Doll

## フレイルームは楽しいな☆



Tokyo Kiwanis Club, Kawasaki University Hospital

Child Health Nursing + Kiwanis Doll

## これが処置室だ！



処置室はちょっぴり緊張。  
でもあんぱんまんを見たい  
気持ちもあるんだよね。

Tokyo Kiwanis Club, Kawasaki University Hospital

Child Health Nursing + Kiwanis Doll

## キワニスドールの活躍 その1

### 『プレパレーションツール』

- 子どもへのプレパレーション
- 「その子らしく検査や治療を受けられる  
心の準備」
- そんな時、キワニスドールは大活躍！！

Tokyo Kiwanis Club, Kawasaki University Hospital



## 点滴を入れられてみたり...



Tokyo University of Health Science, Tokyo University Hospital

## はだかにされたり...



Tokyo University of Health Science, Tokyo University Hospital

## そして時には...



Tokyo University of Health Science, Tokyo University Hospital

## キワニスドールの活躍 その2

### 『Child Doctor Hospital の患者役として登場!!』

CDH (チャイルド・ドクター・ホスピタル) って何?

- ・ 北里大学ぬいぐるみ病院部の学生さんと実施。
- ・ 慣れない入院環境による心のストレスや医療に対するマイナスのイメージ、考えを緩和する。また医療器具や医療行為について一つ一つその意義を知ってもらい医療に親しみを持ってもらおう。
- ・ 入院中の子ども達に医療器具を触ってもらったり、遊んでもらったりする。またキワニスドールを患者役に見立てて、子どもに医者役をやらせよう。

Tokyo University of Health Science, Tokyo University Hospital



Child Health Nursing + Kwanis Doll

CDH を実施した子どもの反応

「人形はどうして病院にきたんだろうね?」の問いに「頭が痛いんだって」と答えた我が子。自分の病気と同じことを言うとは正直驚きました。人形にガーゼを貼っていたのですが、「あまり長く貼っているとかゆくなるから、そろそろはがしてあげるんだ」と自分の身に起きていることと重ねて考えていました。親が面会に来るまでの間も、それとなく人形を触ったりして、少しでも人形に安らぎを求めているのかな...と思いました。

無償で作ってくださっていると聞き驚きました。とてもありがたく思います。今後も病気の子どものために活動を続けて頂ければと思います。

Tokyo Kwanis Club, Kwanis University Hospital

Child Health Nursing + Kwanis Doll

キワニスドールの活躍 その3

『プレイツール』

- ④ 入院生活は子ども達にとって我慢や辛いことの連続...
- ④ キワニスドールを見せると...最初は「何だろう?」でもすぐに熟中。
- ④ 子ども達を見守る存在。

Tokyo Kwanis Club, Kwanis University Hospital

## どんなドールができるかな？

・・・  
夢中でいろいろぬり

ほく、さっきまで  
泣いていたんだ。



Tokyo University of Health Science Hospital

## 子どもの反応

白血病で末期。5歳の男の子。状態はおもわしくなく、日に日に体力が衰え、好きな遊びも満足にできない状態。少しでも、気分転換になればと思い、キワニスドールに絵を描くことを勧めてみた。その子はキワニスドールを真っ黒に塗った。前も後ろも頭も足も真っ黒に。クロちゃんと言ったキワニスドールはあの子の辛い気持ちを、不安な気持ちを受け止めてくれたんだと思います。それからどこに行くにもクロちゃんが一緒でした。やっと状態が少し落ち着き、外泊に出掛ける際にも、あの子はまずクロちゃんを忘れないように持ちました。なぜ真っ黒に塗ったのかはあの子の口からはきけませんが、クロちゃんがあの子を見守っていてくれたことは確かだと思います。

Tokyo University of Health Science Hospital

## おわりに

- ☑ 『受け止めてくれる』存在。
- ☑ 活用方法はアイデア次第。
- ☑ キワニスクラブの活動に感銘を受けるとともに、**感謝の気持ち**。
- ☑ 子ども達や親御さんにも活動の趣旨を伝えていきたい。そして、今後も**子ども達の笑顔**をキワニスドールに携わる皆様にお伝えできるようにしていきたい。

Tokyo University of Health Science Hospital



○日本赤十字社医療センター 小児病棟看護師 南山由美様は小児病棟でお子様達が描いた可愛いキワニスドールをご紹介します。

今日はキワニスドールの晴れ舞台でもあり、私自身こんなに多くの人の前で話するのは緊張してしまうので、私がつくった「のぶひさ君」を連れて来ました。この名前は好きなサッカー選手からとりました。晴れ舞台なのでタキシードを着せてあげたかったのですが、今日の趣旨から考えると普段の格好が一番かなと思いました。お廻ししますので、お手にとってみてください。

パワーポイントでは子ども達が描いたキワニスドールを紹介していますので、ご覧になりながら、お耳を貸していただければと思います。

2006年にキワニスドールのご寄付をいただき、実際に使ってみようという話が持ち上がりました。それまでキワニスドールのことを殆ど知らなかった私たちは顔のないお人形に抵抗を感じたのも事実です。キワニスドールを使い始めたいと思いながら、どういうものかもわからず、忙しい中でどうやって導入すればよいかまったくの手探りでした。私たちが幸運だったのは病棟にいる保育士と隣接する看護大学の先生がキワニスドールを良く知っていたことでした。キワニスドールが持っているお人形としての役割、子どもの目線に近づく一助をくれること、プレパレーションも可能にする凄いお人形さんであることを教えてくれました。しかし、最初からそれがわかったわけではないのです。初めは子どものお友達になれたら良いなという思いの下にキワニスドールは子どもの元に届けられることになりました。

入院してきた3歳以上の子ども達に「白いお人形に顔を描いてみない？」と主に保育士が声をかけて油性ペンと一緒に渡しています。入院直後ではなく、何となく手持ち無沙汰に親子の時間を過ごしている夕方の時間帯に声をかけます。年齢に関係なく、目から描き始め、鼻、口、髪の毛を描きあげると、大体一休みです。その後、洋服を描き始めます。中にはおっぱいとおへそを描く子もいます。更にひっくり返して後姿を描く子や別のおへそを描く子もいます。三重丸を描く子やもう描かずにお仕舞いと言ったりとお子さんそれぞれです。顔を描き上げて一休みするのは洋服にするか、体を描くか考える時間として必要なようです。子どもの集中力に驚きながら、傍で見ていると、あっという間に描き終えて、キワニスドールの名前をつけます。

描きながら、もしくは描き終えると「お家に持って帰って良いの？」「お家に持って帰る」と必ず言います。キワニスドールはその後、自分に命を吹き込んでくれた子ども達のベッドの上でその子どもと一緒に入院生活を送ります。

退院時、「自分で持って行くと言うんです。手提げに自分で入れました。」という母親からの声も保育士は聞いています。家族に抱っこされている子どもがキワニスドールを抱っこしている姿もありました。退院時にはコップやスプーンといった忘れ物を見つけることがあります。しかし、導入以来置き忘れたキワニスドールは一個もありません。

そうやって子どもの傍らにいるキワニスドールを普段ケアをする看護師が子どもと話をするきっかけとして使わない手はありません。キワニスドールの名前を聞いたり、何が描かれるのかを聞いたり、子どもとのコミュニケーションのかすがいになってくれています。キワニスドールをどう彩るかは子どもの個性、感性に委ねられます。入院という制限の多いストレスフルな環境の中で抑えられている個性や感性を発揮できることそのものが、顔のないキワニスドールの魅力だと思います。

次にプレパレーションツールとしてのキワニスドールの一面についてお話します。

漏斗胸（ろーときょう）という胸の骨がへこんでしまう病気があります。その手術は手術後の点滴だけではなく、いろいろな管が付いてきて、とても痛い手術です。その手術に

子どもと親への説明に使えるような漏斗胸の手術後のモデルとして今日お持ちした「のぶひさ君」をキワニスドールでつくりました。プレパレーションをする大きな目的は子どもも家族も手術とその後に対する心構えをしてもらうためです。病院にお泊りしながら、実際にどういうことをして、子どもがどうなるかを話すことは大事なことでと考えています。細かい内容としては飲んだり、食べたり出来ないことの説明を含めて病棟から手術室へ行くまでの流れ、手術が終わったらどんなふうになっているのか、何が付いているのか、看護師さんが子どもにしてほしいこと、してほしくないこと、何時歩いて良いのか、ご飯は何時から食べて良いのか、痛いのは何時まで続くのか等手術後の大まかな流れです。このことは話しながら子どもの反応を見ます。もちろん子どもが「のぶひさ君」に触れるのを止めたりせず、子どもが「のぶひさ君」を好きなように触ってもらいます。

今までキワニスドールを使って子ども達に話をしてきましたが、一人心に残ったお子さんがいますので、最後にご紹介したいと思います。

虫垂炎の緊急手術をすることになった10歳の男の子の話です。お腹が痛くなって病院に行ったら入院になり、一人でお泊りしないといけないし、お腹は痛いし、しかも手術、これは子どもにとっては一大事です。緊急手術までの短い時間をぬってその子と同席していた母親にキワニスドールを使ってプレパレーションをしました。今の痛みの元のばい菌を小さく切ってキワニスドールの右下腹部に貼り、「これを取るにはお腹の手術しかないんだよ」と話したところ大泣きをして「お腹を切ったら死んじゃうかもしれないだろう、失敗するかもしれないだろう」と文句を言われました。あまりに大きな叫び声に母親は大笑いでしたが、本人は必死です。つまり切らないといけないことは理解しています。それを理解した上での死んじゃうかもしれないという気持ち、恐怖を親や私達が知ることが大事だと思います。このままではばい菌が体中に廻って死んじゃうぞ、君が死なないために先生や看護師さんはできることを君にしたいと言ったり、小さい虫に殺されるのも馬鹿馬鹿しいと母親が説得しましたが、お子さんは泣きやみませんでした。それでも、その子は暴れることなくストレッチャーに乗って、同室の子ども達に同じ手術をしたけれど、こんなに元気だよと応援されながら手術室に向かい、無事にサバイバーとして病棟に戻り、数日して退院されました。このように子どもは思わぬことを考えて想像を膨らませているものです。だからそこ、どうして、どうやって、何時何をするのかをその子どもの理解に合わせて説明する必要があります。そうすることで子どもが思っていることを知ることにつながります。子どもの目線で考えることの第一歩は子どもの気持ちを知ることです。そのためにも子どもの視覚に訴えるツールとして、会話のきっかけとしてのキワニスドールは有用だと私達は子どもとの係わりの中で日々感じています。今後も子ども達がその子なりに頑張ったと思える入院生活を送ってもらえるように、プレパレーションに力を入れていかなければならないと感じています。

課題の一つと考えていることは、キワニスちゃんを使って私達に説明されて感じたこと、わかったことなどを子ども達が表現する場所、時間、状況を私達大人が用意することです。表現された子どもの気持ちを子どもなりに理解する内容を周りにいる大人が受け止めて、子どもに返す場が今以上にできれば良いと考えています。病棟のスタッフ、「のぶひさ君」と一つひとつ勉強していきながら、また皆様のお力を借りながら精進していこうと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

「あなたのキワニスちゃん、見せて」

日本赤十字社医療センター  
小児病棟  
看護師 南山由美と仲間たち

子どもたちの描いたキワニスドール









○熊平会員 パネラーの皆様、素晴らしいベスト・プラクティスのご紹介ありがとうございました。真っ白なドールの可能性をたくさんご紹介いただきました。お子さんやご家族の皆様が絵を描いたり、顔を描いたりする中で、一つひとつに魂を吹き込んでお子さんの不安な気持ちや回復を願うところで、ドールが生かされていることを理解することができました。欧州では小児医療において定着しているドールだそうですが、このベスト・プラクティスがもっともっと広く、多くの病院で使われるようになったら良いなと思います。

## ○「お子さん及び親御さんからのメッセージ」水戸済生会総合病院 檜山千景外科病棟看護課長から紹介

東京にも済生会中央病院がありますが、済生という言葉は命を救うという意味があります。水戸済生会総合病院は水戸地区における急性期医療の中核として水戸市及びその近郊の大切な役割を担っています。現在小児科病棟含めて503床あります。隣接している県立の子ども病院の子ども達も当院の放射線治療棟などを利用しています。プレパレーションについては既に報告がありましたので、省略させていただきます。プレパレーション



ョンは大人に対する説明と同じように子どもに説明するときに大事なものになっています。大人も先生から説明を受け理解することは大事ですが、子どももプレパレーションで手術や病気を理解することが大事になっています。私どもの病院でもこのプレパレーションでキワニスドールを使わせていただいています。子どもは感性豊かな時期で、自己中心的ですが、考える力を持っているので、自分と人形を対比させながら病気と闘っているところを感じています。その関係をキワニスドールがより深めていると思っています。今回紹介させていただく3つの事例の中に3つのキワニスドールを活用させていただきました。今日は私と一緒に東京に来て、皆様に見ていただきたいと思います。

小児科の看護師がつくったキワニスドールです。キワニスドールは白の木綿の生地できていますが、私達の皮膚の色に近くするために紅茶で色づけたので、子どもには愛着がわいたようです。5歳児の入院時の診察前の看護師との係わりです。看護師がキワニスドールの「パジャマを脱ぎますよ」と説明しています。聴診器を当てて「お腹や背中のお音を先生が聞きに来ますよ」と説明します。子どもは興味津々で看護師とキワニスドールを見て、説明を聞いていることがわかります。表情も何となくにこやかな感じで聞いていると思います。看護師も子どもも心配だけれど大丈夫かなという顔をして、反応が良いことがわかります。看護師もお人形が肌に優しいので、説明しやすい状況がここからも伺えると思います。

2歳児で入院してから診察前に先生が来ることをキワニスドールで説明しています。お母さんを蹴飛ばしたりして暴れています。看護師が説明をしていますが、まったく無視しています。あれ何だろうとキワニスドールの方を見て説明を聞いて静かになり、お母さんもホッとしているような表情を見せています。

### 子どもの反応

- ・ 2歳児：人形を見ると一時泣き止むが、話は聞かなかったけれど、人形を見て安心した表情をした。
- ・ 3歳児：人形を気に入り、泣かずに説明を聞き、抱っこしたり、着せ替えをして遊んだ。
- ・ 5歳児：腰椎穿刺の説明をしたが、顔がこわばったが、落ち着いて聞いていた。点滴処置の後でパニック状態になった。
- ・ 7歳児：説明をよく聞き、「わかった」と言った。



#### 家族の反応

- ・ 「可愛い人形ですね。」
- ・ 「さっきのお人形さんと一緒だよ」と子どもをなだめたりして、子どもと母親が一緒に治療に立ち向かう姿が見られた。
- ・ 「人形を使うと、分かりやすいですね。」

#### 医師の反応

- ・ 何をされるかわからなくて泣いている子どもも多いので、いいですね。  
先生達はいま一つ人形に対して愛着が薄いので、反応も少し薄かったのが残念でした。

#### 看護師の反応

- ・ プレパレーションで人形を使うと、子どもも分かりやすく、自分達も説明しやすかった。
- ・ 医師は理解をしながらも業務が優先し、診察を待ってくれない、協力が必要。
- ・ 子どもによってはパニック状態になるので、そんなときは難しい。

私達はキワニスドールを使って日が浅いので、事例がありませんが、非常に反応が良い、評判が良いということは確かで、私達も助かっています。小児科でのプレパレーションとは別に私がこれからやろうとしている活動の中に看護師の仕事を地域の皆様や子ども達に知ってほしいと院外ボランティアを計画しています。それは幼児向けに看護師体験をしてもらうことです。保育園や保育所を訪問して、「僕も私も看護師になってみよう」という、キワニスドールで看護師さんごっこをやる計画を立てています。キワニスドールは子どもに馴染みがあるものですので、私もこの会場に来てキワニスドールの力の強さをひしひしと感じました。これからの活動ですが、他のスタッフを巻き込んでキワニスドールを小児科病棟だけではなく、地域の保育所、学校などそれぞれの場所で活用させていただいて、心の豊かな子どもたちを育てられるようにしていきたいと思っています。私の6歳の息子にキワニスドールを見せたら、「真っ白で怖い」というのが最初でしたが、「お口がないからお話できない、最初にお口をつけよう」と言いました。その後、目、眉と描きました。一人っ子なので、弟だと言って遊んでいます。

今日は小児科の病棟でつくった3つドールと一緒に来ました。小児科の看護師は上手につくってくれて、やさしい表情をしています。これからもキワニスドールちゃん達に子ども達を守ってほしいと思います。

1988年看護学校卒業後三井記念病院で5年間勤務、1993年に水戸済生会総合病院に就職、今日に至る。6歳の息子がいて、生き生きと仕事をしている母であることを心がけている。キワニスドールとの出会いは、8年前のフォーカスチャーティングのアメリカ研修での病院で、麻酔科医師が幼児に手術の説明をするのに使っていて、人形を使った説明に斬新さを感じたことを鮮明に覚えている。


**小児のプリパレーションに  
キワニス・ドールを活用しました**

**水戸済生会総合病院**  
 看護課長 檜山千景


**水戸済生会総合病院**  
**【済】すくう**  
**【生】生命、国民**




**病院の概要**

- 水戸地区における急性期医療の中核病院として、市内及び近郊の病院、医院と連携を図り、地域医療に貢献しています。




**プリパレーションとは、病院で子どもが「きっと直面するだろう」と思われる医療行為によって引き起こされる様々な心理的混乱に対し、説明や配慮することにより、その悪影響が最小限になるよう工夫し、その子が乗り越えていけるように子どもの対処能力引き出すような関わりである。**

- その目的は①子どもに情報を伝える②子どもの気持ちを受け止める③病院スタッフと信頼関係を築くことである。

大人のインフォームドコンセント同様、インフォームドアセントとして子どもであっても、その子が分かる方法で説明を受け、子どもなりに納得できる関わりが必要である。  
子どもは説明を受ける権利がある。

- 3歳前後から7歳くらいまでの幼児期は見立て遊びやごっこ遊びを通して物事を理解します。
- むいぐるみやおもちゃを使ってごっこ遊びをしたり、実際に使われる医療機器やそれに似せた人形などを使って見て、感じて、聞いて理解することが出来ます。

■ 子どもは自分自身の立場からしか見ることができないため、子どもの視点から見た内容の説明が必要です。

■ 人形に命があると考えているため、人形も同じ経験をしたと考えることができ、頑張りを引き出すことができる。

3体の人形を作成、診察や腰椎穿刺の説明に使いました  
(肌色は紅茶で色づけました)







診察の説明(5歳)入院翌日診察前





診察の説明(2歳)入院翌日診察前





### こどもの反応

- 2歳児：人形を見ると一時泣き止む、話は聞かなかった。
- 3歳児：人形を気に入り、泣かずに説明を聞く、抱っこしたり、着せ替えをしたり遊んだりした。  
嫌がりながらも泣かずに聴診を受けることができた。口腔視診は泣いてしまった。



5歳児：腰椎穿刺の説明をしたが、顔がこわばってしまう

点滴処置の後でパニック状態になる

7歳児：説明をよく聞き、「分かった」という



### 家族の反応

- 「かわいい人形ですね。」
- 「さっきのお人形さんと一緒だよ」と児をなだめていた
- 「人形を使うと、分かりやすいですね」





### 医師の反応

- 何をされるかわからなくて泣いている子どもが多いので、いいですね。



### 看護師の反応

- 人形を使うと、子どもが分かりやすい
- 泣かないで診察が受けられ、効果がある
- 医師は理解をしながらも業務が優先し、診察を待ってくれない、協力が必要。
- 点滴処置の後、パニックになってしまった。そんな時は、難しい。



- 今後もタイミングよく継続していきます

## ○「医師からのベスト・プラクティス」

### 「～キワニスドールの活躍～ 小児医療の中の遊びの支援」

順天堂大学医学部小児科思春期科准教授・英国ホスピタルプレイスペシャリスト 田中恭子先生



私は現在順天堂の小児科で発達を専門として医療活動を行っています。2002年にイギリスに留学をして、キワニスドールを使ったプレパレーションを目の当たりにして、こういう素晴らしい人形があることを知り、2004年に帰国後はこのお人形を使わせていただいて、子ども達と一緒に病気の勉強をしたり、発達の評価、小児科は生まれたばかりの赤ちゃんから中学3年生まで、最近では慢性の病気の子どももい

るので、大きくなった方まで対象にしていますが、大きく変化がある子ども達を発達に応じた方法でキワニスドールを使わせていただいています。今日は私が出来る範囲の総論的な話と使わせていただいたお人形を紹介させていただきます。

子どもが発達していく段階において三項関係ということが言われています。それはどういうものかという、まず子どもがいて、母親がいて、二人が一つの対象物（テーマ）を共有しながら子どもは発達していくということです。私達医療者、医師も看護師も子どもに対するコミュニケーションのとり方を学んでいるわけではないので、苦手だったりします。泣いている子どもを前にしてどうしたら良いのだろうと日々悩むこともあります。そういったときにおもちゃやお人形さんがあると、子どもとコミュニケーションをとることができます。テーマを共有しながら他者との関わりにより、社会性、言語性の発達が促されるとされています。

今日もプレパレーションという言葉が出てきましたが、プレパレーションとは認知発達段階に応じた方法で、病気や検査などに関する情報を子どもに話し、子どもなりに心の準備をして、病気に立ち向かおう、頑張ろうとする対処能力を引き出すことだと思っています。プレパレーションのときにキワニスドールが活躍しています。プレパレーションは最近では小児医療における倫理的事項である、何も話さずに子どもに医療をするのではなく、子どもの目線に立って、痛いけれど一緒に頑張ろうねといった気持ちを伝えていきます。プレパレーションではお人形を使うことが多く、点滴の管や本物の注射器を使って説明をします。おもちゃのものも用意しますが、本物の方が子どもは喜びます。本物の手術室や本物のレントゲン室の写真を使って説明します。

キワニスドールを使った具体的な活動をご紹介しますと思います。

#### ①外来での育児支援活動

私自身発達外来をやっていますが、お人形さんをもって「おめめはどこですか」「おてはどこですか」と聞くと、1歳半から2歳くらいのお子さん是指差しをすることができます。指差しができるか、できないかは子どもの発達にはとても重要なことです。ごっこ遊びができるようになるのが2歳から2歳半にかけてです。このようにキワニスドールを

使いながら発達の評価をしています。

わくわく広場でプレパレーションをしたときの様子をお話したいと思います。順天堂の外来に通ってくる子どもはいろいろな病気を抱えています。愛着を持って育児ができるように外来で看護師、ボランティアの方々、医師と親子と一緒に遊びながら育児支援をしています。在宅酸素をしている子どもはいつも酸素ボンベを背負っていて、普通の公園や保育園に行くことができず、わくわく広場が唯一の遊びの場になっていました。この子もお人形さんに顔を描いたりして遊んでいました。

3歳半のアトピー性皮膚炎の女の子は手と足を掻いて真っ赤になってしまっていますが、薬を塗ったり、薬を飲むことを拒否します。塗らなければいけないことはわかっていますが、なかなか治療が進みませんでした。そこで、わくわく広場に来てもらい、看護師さんが介入してプレパレーションをすることになりました。「皮膚が赤くなったらどうするの」と聞くと、「お薬塗る」と言います。「皮膚が汚くなったらどうするの」と言うと、「お風呂に入って綺麗にしてからお薬塗る」子どもはわかっているんです。治療行為をお人形さんにすることにより、家でも少しずつできるようになっていった経緯があります。今は5歳になって外来に来ていますが、綺麗になって治療がんばっているんだねと本人の頑張りを認めています。

#### ②病棟での遊び支援

病棟で活動していますが、どのように使ったら良いか看護師にも悩みがありました。病棟でキワニスドールと一緒に渡すパンフレットをつくりました。最近順天堂のホームページにもキワニスドールが載っています。入院してくる親御さんから真っ白いお人形さんもらえるのですかと聞かれることがあります。

3歳の白血病の男児のキワニスドールには胸のカテーテルが描いてあります。週に2,3回行うここの消毒を嫌がっていました。キワニスドールに自分で管を描いて、消毒の真似事することにより、実際の消毒をやりきることができました。

お腹の中に腫瘍があった男の子は化学療法をすると、髪の毛が抜けてしまいましたが、ちゃんと生えてきます。生えるときに自分で茶色の毛糸をつけていました。自分が治療を受けていることをキワニスドールに表現しているんだと思います

順天堂には遊びの専門家のチャイルドライフスペシャリストがいますが、病棟でキワニスドールを使って遊びの支援をしてくださっています。私は基調講演をされる山城先生の下でイギリスに留学させていただき、プレイスペシャリストの勉強をして資格を取得しました。そのときに会った12歳の女の子は交通事故の意識障害で入院し、意識が回復してくると、お人形を大切に自分が頑張った治療を受け止めるためにキワニスドールに表現していました。足の骨折で入院していたダニエル君は固定装具をつくって自分の好きなサッカーチームのユニフォームをキワニスドールに描いて大事にしていました。入院の子ども遊びの意義として、ディストラクション（痛みを伴う処置のとき子どもが痛み集中しないように他のものに気をとられているうちに処置をしてしまうこと）、プレパレーション、プレイセラピー的な遊びもあります。キワニスドールは入院の子どもにとって、どの段階の遊びにも活用できるものだと思います。

#### ④発達に応じた遊び

私は昨年9月に初めて自分の子どもを出産しました。ママが大好きなお人形だと言って渡したらどんな反応を示すかと思いました。感触が良いのだと思いますが、こすったり、タグが気になったようです。口で何でも確認する反射が4,5ヶ月ごろから出てきますが、パクッと口に入れました。こんな感じで家の娘も楽しんでいます。成長発達とともにいろいろな遊びをして、大きくなったらお人形をつくる活動ができるような心の豊かな子に育ってくれたらと思います。



キワニスドールの可能性は無限大だと思います。順天堂にはたくさんのキワニスドールを寄贈していただき、活用させていただいています。今後ともよろしくお願いいたします。

1996年順天堂大学医学部卒業 専門疾患および分野は乳幼児の心理発達。英国ダンディー大学心理学部にて乳幼児の心理発達の研究に従事。更に英国ステイブンソンカレッジにてホスピタルプレイスペシャリストコースを修学し、同資格を取得。

2007年順天堂大学医療看護学部健康学専攻講師、2008年医学部准教授に就任。2006年プレパレーションガイドブックを執筆し、そこでキワニスドールの紹介をしている。

### ～キワニスドールの活躍～

#### 小児医療の中の遊びの支援

順天堂大学医学部小児科患春期科  
田中恭子

### 発達における三項関係



### プレパレーションとは？

認知発達段階に応じた方法で  
病気や検査などに関する情報をこどもに提供し  
心の準備をする機会をつくり、  
対処能力をひきだすこと

#### 目的

1. 病気・医療行為・治療に対する理解を促す
  2. 誤解や不安を軽減する
  3. 自己の感情を表現する機会を与える
  4. 自己認識と自尊心を養う
  5. 医療スタッフとの信頼関係をつくる
- などいろいろあるが、...



小児医療における倫理的事項である！

### プレパレーション

写真を使った説明

キワニスドール



## ①外来での育児支援活動 わくわく広場の様子



子ども同士が自然にふれあいます



看護師によりプレパレーションも

## 3歳半 女児 アトピー性皮膚炎



## ②病棟での遊び支援



【おスビタル・ドール】

株式会社  
小児科・児童科  
小児科・児童科



おスビタル・ドール

## 3歳 男児 白血病

## IVHの消毒を プレパレーション



2歳半 男児 腹部腫瘍



③英国における活動

プレイスペシャリストとは？

- こどもの発達と、遊びの重要性  
を学んだ遊びの専門家(保育と医療)
- 様々な状況(発達と健康レベル)を考慮した遊びの提供  
プレイセラピー  
ディストラクション  
発達を促す遊び  
心理的効果の期待される遊び
- 英国の国家資格



キワニスドール

交通事故で入院した児  
Rhona, 12 years, RTA



キワニスドール

Daniel, 9 Years Old



External Fixator



骨折で  
入院した児



## 入院児における遊びの意義



図1 ●入院している子どもにとっての体験とそれにとりあう遊び\*

## ④ 発達に応じた遊び:6ヶ月 女兒



## キワニスドールの可能性は無限大！



## ○「看護教育からのベスト・プラクティス」

茨城キリスト教大学看護学部教授 藤村真弓先生



私は茨城キリスト教大学看護学部で小児看護の教員をしております。今日ご出席の看護婦さんも看護学校や看護大学時代に小児看護の勉強をされたと思います。看護教育全体の中で小児看護学を学ぶ時間は少ないのが状況です。私は小児看護に携わって今年で38年になりますが、私の経験を伝えながら、一人でも多く小児科の看護師になりたい人を育てたいと思っています。授業を出来るだけ有効にするために、小児看護の授業の中でキワニスドールを使わせていただいています。大学の教員になって10年ですが、以前いた沖縄の看護大学時代にはまだキワニスドールを知りませんでした。

プレパレーションについては今までいろいろな方がお話されたので、詳しいことは申しあげませんが、小児看護技術の中で重要なものだと考えています。看護技術には、さまざまな技術があります。学生達は基礎看護で血圧の測り方、脈のとり方、体の拭き方などを習ってきます。小児看護でも同様のことを学ぶのですが、いくら学校で練習しても、実習現場で生身の子ども達を相手ではそう簡単には測れません。そういう意味でプレパレーションは大事だと思っています。プレパレーションにおいて道具はいろいろあります。木でつくられたものなどお金を出せば買えます。私がキワニスドールを大事にしたいのは、ボランティアの方々が手づくりでつくってくださっているということで、まず学生達にその話をします。看護の看という字は手と目という字で構成され、護は守るという意味です。看護というのは体全部を使って、患者さんを護っていくものだと学生に言っています。そういう意味においても手づくりのものを使うということは大切なことだと思っています。

授業ではグループ分けして、1グループに3個のキワニスドールを渡し、①子どもへの検査・処置の説明に用いるもの、②子どもの気持ちを楽しくするもの、③自由な発想で作成するという3つの課題を与えて作成しています。病気の説明をするドールには内臓やばい菌を描いたり、手を包帯で吊ってみたりしています。お腹の中に赤ちゃんを描いて産科で使えるものをつくる学生もいます。年齢的には20歳を越えている学生達ですが、先ほどお話のあった入院している子ども達が楽しいそうに作るのとほぼ同じように楽しそうにつくっています。私の授業はこういった楽しい演習があるので、「藤村先生の授業は大好き」と言われています。最後になぜこういうものを作ったかグループ毎に発表させます。次の学年の授業のときに使うために、一番出来の良かったドールは私にプレゼントしてもらうことにしています。作成したドールは、小児病棟実習のときに実際に使っています。小児看護を学ぶ中で買ったものではなく、手づくりのものにさらに自分達で手を加え、子ども達に使うという人と人とのつながりを大切に考えてキワニスドールを使っていきたいと思っています。

日本の漢字には一つ一つ意味があります。子供の供という字には従わせる、お供をするという意味があります。子どもは決して大人の付属物でも所有物でもありません。私は子どもという字はひらがな、もしくは漢字の子にひらがなのどもを使ってほしいと思います。



日本の漢字の意味を学生達に話しながら、小児看護の授業をキワニスドールに助けてもらいながらやっております。

1972 年、聖路加看護大学卒業。兵庫県立こども病院、東洋英和女学院小学部に勤務後、1975 年より聖路加国際病院勤務。小児病棟主任、付属看護専門学校教員、外来婦長を経て、1995 年より小児病棟婦長を 5 年間勤めて退職。

2000 年より沖縄県立看護大学助教授、2004 年より茨城キリスト教大学教授。

09/4/4 キワニスドールシンポジウム

## 小児看護学の授業に生かす キワニスドール



茨城キリスト教大学看護学部  
藤村 真弓

## 授業の1例 看護技術 プレパレーション演習



### プレパレーションとは

#### プレパレーションの定義

「病気や入院によって引き起こされる子どものさまざまな心理的混乱に対し、準備や配慮をすることによって、その悪影響を和らげ、子どもの対処能力を引き出すような環境を整えること。」(小児看護辞典)

一般的には「心理的準備」と訳されるが、小児看護学領域ではそのまま「プレパレーション」という言葉を使用することが多い。

3

### プレパレーションの目的および内容

#### 目的

- 1 子どもに正しい知識(情報)を提供する。
- 2 子どもに情緒表現の機会を与える
- 3 医療者との信頼関係を築く

#### 内容

- 1 入院中の生活や出来事に関すること
- 2 病気に伴う理解や治療、検査、処置に関すること

4



## プレパレーションの実施

### ・実施の段階

- 第1段階:子どもと子どもを取り巻く状況の  
アセスメント
- 第2段階:プレパレーションの計画
- 第3段階:プレパレーションの実施
- 第4段階:処置等の実施場面における支援
- 第5段階:事後評価と事後処理

## 学生におけるプレパレーション演習

- 1 プレパレーションに関する知識の講義をビデオ等の視聴覚教材を活用して行う
- 2 プレパレーションツールとして、クワニストールを使用して、演習する

### 〔具体的方法〕

1グループに3体のクワニストールを配布し、3つの課題を提示する。課題に沿って、クワニストールの作成を実施する。

課題①子どもへの検査・処置の説明に用いるもの

課題②子どもの気持ちを楽しくするもの

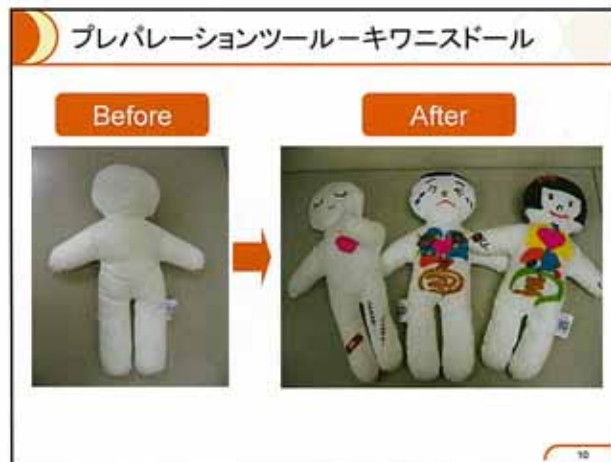
課題③自由な発想で作成する

## 演習風景



## 演習風景







## ○基調講演—キワニスドールへの期待

順天堂大学医学部大学院教授 山城雄一郎先生



こんなに大勢の方がキワニスドールに関心を持っていただいていることに、キワニスドール普及に関与してきた者として大変嬉しく思います。本日のテーマをキワニスドールへの医学的な期待というように置きかえお話しをさせていただきたいと思います。

キワニスドールの多くは入院した患者さんに使います。しかし外来でも使います。入院した子ども達は年齢にもよりますが、多くの子ども達は親から切り離され、“恐怖”に満ちた環境に置

かれ、子どもは病気のことを知りませんから、何でこんなところに連れてこられたかと不安を抱えています。子どもは常に不安定な心理状態ですが、それを子どもは自分でコントロールできません。子どもは未発達であるというのが特徴です。言い換えれば未発達ということは、発達するということです。子どもは日に日に成長していますから、大人を小さくしたものではないという考えが大切なことです。心理的な不安が身体的な症状を引き起こします。身体的症状が容易に心理的不安をもたらします。

肉体的な機能が障害されると精神的に悩み、精神的に悩むと肉体的に異変が生じます。病気で苦しむ事は肉体的な痛みだけでなく、精神的苦痛を伴う事となりストレスとなります。ストレスがたまると免疫力が低下します。そこで遊びをしたり、学習をすると、ストレスは発散され心身が癒されます。子ども達も最初は学校に行かないことを喜びますが、そのうち学習の遅れが不安になりますから、子ども達が学ぶ院内学級が必要になります。院内学級で学ぶ機会を与えることにより、肉体的にも精神的にも癒しができます。そして自然の免疫力が回復してきます。

子どもの遊びの意義：1. 体を動かすこと、脳を働かせることは発達を促進します。2. おもちゃがなくても子どもは遊べますが、そこにキワニスドールがあれば言うことなしです。遊びをするのに子ども達は創意工夫をします。それは知的発達を刺激します。3. 遊びは情緒を豊かにします。4. 遊ぶことによってルールを学びます。ルールを学ぶということは社会に適応する上でも大事なことです。5. 身体的・精神的快感が免疫力に影響し、自然治癒力を高めます。

病院における遊びの役割：以前は入院すると安静が大事ということで遊ばせませんでした。これは子どもにとっては大変な苦痛でした。遊ぶことは子どもが日常の状態に戻ることです。少しでも病状が良くなると子どもは動き遊びたがります。これは当然のことです。子どもにとって悪いことではなく、良いことで、フラストレーションも解消します。遊ぶことにより、当初はお互い知らない者が友達になったり、看護師など病院のスタッフとのコミュニケーションを図ることができ、信頼関係が構築されます。そして、肉体的、精神的快感を覚え、自然治癒力を高めることになります。

遊びを通した治療：1. 子どもは自分の病気の理解を促します。2. 誤解や不安を軽減し、積極性を促します。3. 自己の感情を表現する機会を与えます。4. 自分を認識し、



自分がなぜ病院にいるかがわかってきます。5. 医療スタッフとの信頼関係を築くことができます。6. 子どもはなぜ治療をしなければならないかを理解すると、例えば点滴だというと、泣きながらも手を出すようになります。自分の置かれた立場を子どもなりに理解します。

先ほど講演をした順天堂大学小児科の田中恭子医師はホスピタルプレイスペシャリストというイギリスの国家資格を持つ日本で数人しかいない、医療現場で子どもと如何に接するかノウハウを持っている専門家です。日本の小児科医では彼女だけだと思います。これと類似のチャイルドライフスペシャリストはアメリカ、カナダの資格で、日本には20名ほどいます。田中医師はこの資格を取りにいったのではなく、発達ということを学びに行きました。赤ちゃんから思春期までのヒト達を小児科では扱います。成人とは違う子どもの特徴は、発達を続けている事で、子どもは日に日に発達し昨日と今日でも違ってきます。子どもの発達を知らないことには適切な病気の治療も出来ないし、子どもと遊ぶ上でも大事なことです。発達を考慮した遊びを提供することがこの職業の人達の役割です。

1989年に児童の権利に関する条約が国連で採択され、1994年に日本も批准しました。障害児の権利、健康・医療への権利、教育への権利、これらすべて小児病棟でやらなければならないことです。こういうことをやる上で、遊びが大事になってきます。これはどの病院でもやらなければならないことです。ヨーロッパには病院のための『こども憲章』があります。子ども達が遊びの輪に参加することにより健康への自信の回復につながり、夢中になって病気を忘れることもあります。順天堂の小児科病棟でボランティアで仕事をして下さっているアートセラピストによると、入院した不安な時期と回復して退院間近な子ども達の絵は色使いや絵の内容が違ってくるという分析がありますが、その通りだと思います。そういうことからキワニスドールの利用方法があると思います。

1967年 順天堂大学医学部卒業 1978年 英国ウェールズ大学小児科講師 1984年 順天堂大学小児科助教授 1997年 順天堂大学小児科教授 2007年 順天堂大学 小児科教授退任 同大大学院プロバイオティクス研究(ヤクルト)講座特任教授 アメリカ小児科学会(APS)名誉会員、ドイツ小児科学会名誉会員、アジア小児医学研究学会議(ASPR)前会長、アジア汎太平洋小児栄養消化器病学会(APPSPGHAN)元会長、日本小児科学会前副会長、現国際渉外委員長



## 子どもの遊びの意義

1. 身体運動発達促進
2. 創意工夫して知的発達を刺激
3. 喜怒哀楽を感じ情緒を豊かにする
4. 対人関係、社会的ルールを学ぶ
5. 身体・精神的快感が免疫力に影響し  
自然治癒力を高める

## 病院における遊びの役割

1. 病院の雰囲気をやかにし、家庭のそれに  
近づけ患児の違和感を除去
2. 患児の恐怖感、苦痛、不安、寂しさ、  
怒りなどにより生じるフラストレーションを解消
3. 病院スタッフとのコミュニケーションの確立、  
信頼関係を構築
4. 肉体的、精神的快感を覚え、自然治癒力を高める

## 遊びを通じた治療

### 活動のねらい

1. こどもの病気、その病気に関する医療行為、  
治療に対する理解を促す
2. 誤解や不安を軽減し、積極性を促す
3. 自己の感情を表現する機会を与える
4. 自信を与え、自己尊重の認識を助ける
5. 医療スタッフとの信頼関係をつくる
6. 入院生活という経験を前向きに消化できる

## ホスピタル プレイスペシャリスト の役割 (チャイルドライフ スペシャリスト)

1. プレイルームでの日常的な遊びの運営  
個々の児の発達を考慮した遊びの提供
2. 不安、孤独などの感情との適応を援助
3. 検査、治療などの説明、心の準備を援助
4. 遊びを通じ、こどもの心理、身体状況の観察
5. 家族を含めた心理的サポート



## 児童の権利に関する条約 (子どもの権利条約)

1989年11月20日 国連採択

1994年 5月22日 日本政府批准、発効

第23条 障害児の権利

第24条 健康・医療への権利

第28条 教育への権利



## キワニスドールの役割



## キワニスドールの役割

1. 子ども達が自由に顔、体、衣服などを描ける。
2. 顔の表情に患児の心理状態が投影され、その変化を経時的に推察出来る可能性がある。
3. 自分の分身として保管する事ができる。

○ シンポジウム終了後、キワニスドール体験コーナーには 130 名が参加し、150 個のドールが完成しました。



#### キワニスドールシンポジウム編集後記

キワニスクラブが 2001 年にキワニスドールを作り始めて 7 年、全国全ての都道府県の病院でドールが活躍しています。私たち会員はドールを寄贈した病院からいただくお礼の言葉や、学会・メディアに紹介されたドールの活躍の様子をうれしく拝見しておりましたが、実際にドールを活用してくださっている医師や看護師の皆様から直接お話をうかがいたいと思い、このシンポジウムを企画いたしました。東京、横浜、埼玉のクラブが協力してイベントを開催することは初めてであり、またキワニスクラブ会員以外のかたに参加を大々的に呼びかけるのもはじめて、全てはじめてづくしで開催したシンポジウムでしたが、結果は大成功に終わりました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。このシンポジウムで、お話をくださった皆様の病気のお子さんたちにたいする暖かいお気持ちを文字におこすことで、さらにシンポジウムの内容や、キワニスドールの活躍をひろくご紹介できると大変うれしく思っております。これからもキワニスドールがさらに多くの病気のお子さんたちに勇気を与えることが出来るよう、私たちキワニスクラブ会員は、多くのボランティアの皆様とご一緒にドール作りに励んでまいります。そして、日本の将来を担う子どもたちが、夢を持って明るく育ってくれることを願い、今後も幅広い活動を展開してまいりますので、よろしくご指導をお願い申し上げます。

(YCPO 委員長 堀井紀壬子)

#### キワニス・ドール・シンポジウム

2009 年 8 月 20 日発行

発行者—川崎弘

発 行—(社)東京キワニスクラブ

〒101-0047 千代田区内神田 2-3-2 米山ビル

TEL03-5256-4567 FAX03-5256-0080

<http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>

e-mail [tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp](mailto:tokyokiwanis@japankiwanis.or.jp)